

新体制初戦。 国士館大学に37対7で圧勝



総獲得ヤード数123ヤード。平均11.2ヤードと、圧巻の走りで国士館大学を圧倒した#21RB・高橋周平（👉写真）。昨年の天才的にカットを切る森川瑠偉、重厚感とスピードを兼ね備えた#39・廣長晃太郎とは一味違い、しなやかに、するっとディフェンス陣をすり抜けるタイプ。また約65ヤードのキックオフリターンタッチダウンは、ボールの見どころを誤らず、チャンスを確実にモノにした。

4Q、30ヤードのロングパスを決められ7点を献上。完封とはならなかったものの30点という大差で勝利。

4月23日。5年ぶりに、関西学院大学と日本大学の定期戦が開催された。当時、連日報道された「悪質タックル問題」から、コロナ渦を経て迎えたこの日。アメリカのテールゲートパーティのような、BBQブースも設置され、新たな関係の幕開けに華を添えていた。たとえ交流戦でも最後まで決して手を緩めないない関学らしい試合展開で、残り43秒で逆転。14対10で日大が敗れた。

日大は昨年活躍していたQB #9加藤俊輔、#8金澤 檀のパスが主軸の攻撃。グリフィンス戦でもこの二人を基軸にゲームプランを組んでくると思われる。

ラン中心で攻めた関学を守護神 #99DL 鱧谷 彪をはじめとするディフェンス陣が、4Q、残り43秒まで逆転を許さなかった。

国士館戦では、パスでのヤード獲得に苦戦していたグリフィンス。日大のディフェンス陣は、パスカバーがうまい。#13・水木亮輔、#15・新楽圭冬が投じるレシーバー陣へのパスがどれだけ決まるかが勝負の分かれ目になる。ディフェンス陣はアグレッシブに攻め、インターセプトをはじめ、日大のパスを阻止する事で勝利に近づく。

昨年の悪夢よ、さようなら

FINISH IT !

5月7日(日)13:45 kick off